

第74回美学会全国大会 プログラム

10月14日(土)

11:30- 受付 南校舎 5階 ロビー

東館 8階 総会(会場:東館ホール) 12:00-13:00

南校舎 5階 研究発表(会場:453, 455, 456, 457教室) 13:15-14:40

分科会 1 芸術と経験科学

司会: 木村 直弘(岩手大学)

4 13:15-13:55 ウィリアム・ブレイクの《ニュートン》と「アルキメデスの死」 中嶋 康太(慶應義塾大学)
5 — 古典的逸話を用いた理性批判
3

14:00-14:40 「生命」としての聴者 岡野 宏(電気通信大学)
— 音楽療法へのブラウニズムの影響をめぐって

分科会 2 ジェンダーのありか

司会: 長野 順子(大阪芸術大学大学院)

4 13:15-13:55 美とトランス・ミソジニー 高木 駿(北九州市立大学)
5 — 美の家父長制の乗り越えをめぐって
5

14:00-14:40 『問題=物質となる身体』におけるジュディス・バトラーの 青本 柚紀(東京大学)
系譜学的実践 — 形相と質料の区分の系譜学

分科会 3 根源への問い

司会: 青木 孝夫(広島大学 名誉教授)

4 13:15-13:55 「古典」の形成という視点から見た沖縄近代 喜屋武 盛也(沖縄県立芸術大学)
5
6

14:00-14:40 木幡順三の美意識論 — 生き方としての美学 柳澤 広美(成城大学)

分科会 4 美学の位相

司会: 桑島 秀樹(広島大学)

4 13:15-13:55 リオタールの美学と二つの「世界」 浅野 雄大(東京大学)
5
7

14:00-14:40 ラカンの美学 落合 仁司(同志社大学)

南校舎 5階 当番校企画(会場:南校舎ホール) 15:00-18:15

15:00-18:00 シンポジウム「イメージの〈通路〉」

企画趣旨

発表 1 デイヴィッド・フリードバーグ著『イメージの力』 遠山 公一(慶應義塾大学)

発表 2 フィクション(イメージと言葉)が交叉点となる複数世界 樋笠 勝士(岡山県立大学 特命研究員)

発表 3 舞踏家土方巽における病める身体の形姿 森下 隆(慶應義塾大学アート・センター)

発表 4 イメージ空間における意識と像行為(Bildakt)の所在 坂本 泰宏(信州大学社会基盤研究所、マックス・プランク経験美学研究所)

進行・討議モデレーター 後藤 文子(慶應義塾大学)

18:00-18:15 慶應義塾の建築プロジェクトについて 渡部 葉子(慶應義塾大学アート・センター)

展示施設自由見学

福澤諭吉記念 慶應義塾史展示館 「常設展示」	10:00-18:00
慶應義塾大学アート・センター 「Artist Voice II: 駒井哲郎 線を刻み、線に遊ぶ」展	11:00-18:00
慶應義塾ミュージアム・コモンズ 「常盤山文庫×慶應義塾 臥遊 ^{がゆう} —— 時空をかける禅のまなざし」展	11:00-18:00

* 各施設へは、受付でお渡しする名札を着用してご入館ください。

10月15日(日)

8:50- 受付 第一校舎2階 ロビー

* 大会二日目は会場が第一校舎と南館(法科大学院棟)に分れますが、受付は第一校舎のみとなります。ご注意ください。

第一校舎2階 若手研究者フォーラム(会場:121, 122, 123, 124教室)

9:30-11:50

F分科会1 美学1

司会:森 功次(大妻女子大学)

9:30-10:00 不道德主義再考 — A. W. イートンの「ラフ・ヒーロー」
概念と想像的抵抗を中心に

中西 健(京都大学)

10:05-10:35 芸術の認知的価値とは何か
— ビアズリーの美的厚生論からの再考

汪 瑾如(東京大学)

F分科会8 美学3

司会:柿木 伸之(西南学院大学)

10:45-11:15 芸術作品を「読むこと(Lesen)」の解釈学的意義
— ガダマー解釈学における「像(Bild)」論の展開

土方 尚子(中央大学)

11:20-11:50 フッサールにおける再生としての想像概念について

伊藤 俊介(東洋大学)

F分科会2 現代美術1

司会:平芳 幸浩(京都工芸繊維大学)

9:30-10:00 1990年代のミハエル・ボレマンズの活動について

石川 絵梨花(実践女子大学)

10:05-10:35 ジョン・シャーカフスキーは「ニュー・ドキュメンツ」展
(1967)で何を目指したか

山際 美優(同志社大学)

10:45-11:15 荒川修作の無-意味な身体
— 『意味のメカニズム』と『建築する身体』を架橋する

花房 太一(京都芸術大学)

F分科会3 美学2

司会:岡本 源太(國學院大学)

10:05-10:35 アガンベンの美学思想について
— 美学の破壊から芸術機械の不活性化へ

竹下 涼(京都大学)

10:45-11:15 マリア・サンブラーノの「注意」概念について

江川 空(京都大学)

11:20-11:50 性癖と趣味
— カント哲学における趣味の政治的再定位

中村 陽太(東京大学)

F分科会 4 現代美術 2

司会：松井 裕美(東京大学)

10:05-10:35 『アッサンブラージュ、エンバイロメント、ハプニングス』
(1966)における具体美術協会とアラン・カプローの関わり

武澤 里映(大阪大学)

10:45-11:15 モネを語るマッソン
—— シュルレアリスムの画家による印象派絵画の解釈

古屋 詩織(早稲田大学)

11:20-11:50 マーク・ロスコ《ロスコ・チャペル壁画》にみる次世代の
美術動向への応答

森 卓也(一橋大学)

1
2
4南館(法科大学院棟) 地下 4 階 若手研究者フォーラム 9:30-11:50
(会場:2B41, 2B42教室, ディスタンスラーニング・ルーム)**F分科会 5 美術史 1**

司会：加藤 明子(三菱一号館美術館)

9:30-10:00 クリストファー・ウォールのステンドグラス
—— 近代ガラス工芸史における新素材の意義に基づく考察

方波見 瑠璃子(慶應義塾大学)

10:05-10:35 ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス《マリムネ》に
関する批評分析と「白衣の女」について

本美 里紗子(國學院大学)

10:45-11:15 非活動的な身体と音楽的テーマ
—— アルバート・ムーア《音楽家》と《カルテット》

梶間 里奈(筑波大学)

2
B
4
1**F分科会 6 音楽と舞踊**司会：小穴 晶子
(多摩美術大学 名誉教授)9:30-10:00 A. サン＝レオン著『ステノコレグラフィ』に見出すクペの
歴史的連続性 —— 他の時代のクペとの比較を通じて

吉田 久瑠実(成城大学)

10:05-10:35 アントン・ブルックナーの《交響曲第 5 番》における
聖と俗の統合

岡本 雄大(京都大学)

2
B
4
2**F分科会 9 美術史 2**司会：吉田 朋子
(京都ノートルダム女子大学)10:45-11:15 エドゥアール・マネ《皇帝マクシミリアンの処刑》にみる
1860年代の画家の実践

川澄 祥(名古屋大学)

11:20-11:50 モーリス・ドニのアラベスク論
—— 活動初期における「象徴的装飾としての絵画」の探究

吉原 里花(慶應義塾大学)

F分科会 7 映画

司会：前田 茂(京都精華大学)

10:05-10:35 1930年代の機械美における音声的側面
—— 「映画音」と「音画」理論の有機性について

王 琼海(立命館大学)

10:45-11:15 “Hollywood Renaissance” におけるイエス・キリスト像
の転換

朴 志元(関西学院大学)

11:20-11:50 アニメーションに見られる時間の非整合性について

倉根 啓(京都大学)

デ
ィ
ス
タ
ン
ス
ラ
ー
ニ
ン
グ
・
ル
ー
ム

昼休み 昼食会場：西校舎半地下1階 学生食堂〔生協食堂〕

利用時間 11:30-13:30

自由見学(三田演説館・旧ノグチ・ルーム・猪熊弦一郎作壁画《デモクラシー》)

* 三田演説館/旧ノグチ・ルーム 11:30-15:00 * 壁画《デモクラシー》は昼食時に学生食堂でご覧ください。

第一校舎2階 研究発表(会場：121, 122, 123, 124教室)

13:20-17:50

分科会 5-1 身体と社会

司会：武田 宙也(京都大学)

13:20-14:00 「ファウヌスの家」の装飾プログラム研究 — 《アレクサンドロス・モザイク》と《魚介類のモザイク》を中心に

野々瀬 真理(東北大学)

14:05-14:45 共同体「キブツ(kibbutz)」の労働行為とダニ・カラヴァンの芸術制作 — 展覧会「マコム(makom)」(1982年)の分析に基づく再解釈

早坂 若子(慶應義塾大学)

14:50-15:30 「言説的サイト」概念の批判的検討

河 珠彦(東京大学)

分科会 5-2 身体と社会

司会：川瀬 智之(東京藝術大学)

15:40-16:20 「身体」が見る複相的な世界 —メルロ=ポンティの『眼と精神』が示す身体と自然

柿沼 美穂(東京工芸大学)

16:25-17:05 ナンシーにおける「分有」の概念と情動的主体としての衣服

安齋 詩歩子(東京工業大学)

17:10-17:50 ジョン・デューイの美的経験論と日常美学 — カッレ・ポオラッカによる整理を中心として

青田 麻未(群馬県立女子大学)

分科会 6-1 出来事という制作

司会：津上 英輔(成城大学)

13:20-14:00 なぜ悲劇で悲しむべきなのか — フィクション鑑賞における感情的反応の適切さについて

岡田 進之介(東京大学)

14:05-14:45 18世紀前期の人形浄瑠璃におけるカシラの流用について

細田 明宏(帝京大学)

14:50-15:30 A・G・ブラガーリアとピクトリアリズム — 未来主義者が理想とした芸術写真のあり方

角田 かるあ(慶應義塾大学)

分科会 6-2 出来事という制作

司会：関 直子(早稲田大学)

15:40-16:20 高松次郎の《山手線事件》— 「空虚」の可視化を求めて

大森 和紗(同志社大学)

16:25-17:05 福島秀子の抽象表現 — 円から青へ

金澤(新畑) 清恵
(東京都現代美術館)

分科会 7 境界と接続

司会：秋庭 史典(名古屋大学)

13:20-14:00 「詞」における時間と自己の表現 — 『人間詞話』(1908)の概念「境界」を中心に

楊 冰(大阪公立大学)

14:05-14:45 芸術の機能を見出すのは誰か — 鑑賞者、制作者、制度のフレーミング

Jean Lin(筑波大学)

14:50-15:30 機械の身体 — 美学は人工知能をどう語るのか

吉岡 洋(京都芸術大学)

分科会 8-1 グローバルな共感

司会：平井 章一(関西大学)

14:05-14:45 1920年代の斎藤佳三における装飾美術

島津 京(専修大学)

14:50-15:30 須田国太郎の絵画技術について

小林 俊介(山形大学)

分科会 8-2 グローバルな共感

司会：高梨 友宏(大阪公立大学)

15:40-16:20 エコロジーを思考する芸術表現
—— より豊かな〈美的共感〉のための試論大久保 美紀
(情報科学芸術大学院大学)16:25-17:05 クレメント・グリーンバーグの美学における美的判断の構造
—— カント美学との連関を手がかりに

大澤 慶久(東京藝術大学)

南館 地下4階**研究発表(会場：2B41, 2B42教室)****13:20-17:50****分科会 9-1 言説と批評**

司会：新畑 泰秀(アーティゾン美術館)

13:20-14:00 17世紀フランス宗教画とgrâceの概念
—— アンドレ・フェリビアン美術批評をめぐって

望月 典子(慶應義塾大学)

14:05-14:45 ニコラ・プッサン作《ニュサのニンフに預けられる幼い
バックス、ナルキッソスとエコーの死(バックスの誕生)》
—— 物語と空間、文学典拠の境界

福田 恭子(神戸大学)

14:50-15:30 若さとしての牧歌
—— プッサンの《詩人の靈感》と文芸ジャンルの新旧の問題

高橋 健一(成城大学)

分科会 9-2 言説と批評

司会：林 卓行(東京藝術大学)

15:40-16:20 趣味のニーチェ的基準について

村山 正碩(一橋大学)

16:25-17:05 雑誌『美術新報』が紹介した作家たち —— 人選とその意味

日比野 未夢(千葉大学)

17:10-17:50 マネはいかなる意味で「モダニズムの画家」であるのか
—— マイケル・フリード『マネのモダニズム』における「対面性」
の概念をめぐって

折居 耕拓(大阪大学)

分科会10-1 造形の変位

司会：竹中 悠美(立命館大学)

13:20-14:00 J. W. ウォーターハウスの折衷主義とモダニズム

山口 茜(筑波大学)

14:05-14:45 現代日本美術における少女のアブジェクト
—— 澁澤龍彦「少女コレクション序説」に着目して

山田 萌果(北海学園開発研究所)

14:50-15:30 現代イギリスの「公式戦争美術」について

石田 圭子(神戸大学)

分科会10-2 造形の変位

司会：今村 信隆(北海道大学)

15:40-16:20 ヨーリス・フフナーヘル晩年画中画における蒐集実践の
視覚化

河村 耕平(東北大学)

16:25-17:05 ロジェ・ド・ピールの肖像画論と「扮装肖像画」について

村山 雄紀(早稲田大学)

17:10-17:50 リチャード・ハミルトンの《The critic laughs》—— 1968年
の「プリント」と1971-2年の「マルチプル」をめぐって

吉村典子(宮城学院女子大学)